

校内研修計画

塩山南小学校

1 学校課題

- ① 本校児童全体を見ると、学力面、健康面、ものの見方や考え方、家庭の養育態度や経済力など様々な事項に対して、それぞれに大きな個人差が見られる。
- ② 児童一人一人に対して、個に応じた指導（個性化個別化）に心がけているが、現実には、ゆとりが無く十分な指導とまではいっていない。
- ③ 本校では近年、発達障害児及びその傾向児童が増加し、学習指導及び生徒指導において学級経営上の課題になっていて、今後もこの傾向は続くという実態がある。
- ④ 新学習指導要領に基づく本校の教育課程を充実したものにしていく。

2 研究主題

「どの子も伸びる授業の改善」

～特別支援教育の視点を生かした授業づくり・Q-Uを取り入れた集団づくり～

3 主題設定の理由

一昨年度から新学習指導要領が完全実施され、教科書は、平均して25%ページ数が増えている。これは、当然教える内容が増えているということだが、ゆとりの無い時間割（教育課程）の中で、定められた学習内容をすべて身に付けさせるには、「どの子にもわかる授業」を仕組んでいかなければならない。また、同時に県や市の学校教育目標や指導重点、本校の学校教育目標、めざす子ども像「生きる力」の具現化を図るためにも、充実した授業を仕組んでいかなければならない。

一方、本校の子どもたちの実態を見ると、学力面、健康面、ものの見方や考え方、家庭の養育態度や経済力など、いずれも大きな個人差が見られる。また、近年は発達障害児及びその傾向児童が増加し、学習指導及び生徒指導において大きな課題となっている。この課題に対応するために、一昨年度から特別支援の手法を授業や環境に取り入れ、学習のユニバーサルデザイン化を図り、支援の必要な児童だけでなく学級全体の児童に「わかる授業」を目指し、研究・実践を重ね成果を挙げてきた。今年度は研究のまとめの年度として位置付け、過去の成果を生かし実践を重ねながら、どの子も伸びる授業の改善を図っていく。さらに、昨年度作成した「南小 家庭学習の手引き」を活用し、家庭との連携を深めながら、児童の学ぶ力を伸ばしていきたい。

また、今までの研究の過程で、効果的に「わかる授業」を進めるためには、集団づくり（学習規律・認め合う雰囲気）が必要であることが確認され、学習規律の共通確認やQ-U検査を活用した集団づくりに取り組んできた。今年度も学習規律をさらに徹底していく中で、Q-U検査を活用し、学級集団や個々の児童の実態を把握しながら、課題やその対応方法について研究・実践を行い、集中して学習に取り組める学級集団づくりを目指していきたい。

4 研究の具体的内容と方法

- ① 児童の実態把握と支援計画の作成（ひまわり、オープン教室対象児を中心に）
- ② ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備、授業実践
- ③ Q-U検査を活用した集団づくり
- ④ 家庭での学習のあり方・保護者との連携
- ⑤ 学習規律・生活規律の確認と徹底

年間校内研修計画

研究主任 伊藤淳司

回	月	日	担 当	研 究 内 容	TC
1	4	10	全体会	研究主題、研究内容、研究計画等について検討	
2	4	24	全体会	研究主題、研究内容、研究計画等について決定	
3	5	1	全体会	ブロック長の決定・研究を進める上での確認事項	
	5	17	初任研開校式		
4	5	22	ブロック	授業研究の準備	
5	5	29	全体会	初任研授業①の授業案検討	
6	6	7	ブロック	初任研授業① 4年算数	
7	6	12	ブロック	Q-Uについての理論研究	
8	6	28	ブロック・各個	Q-Uについての考察	
9	7	3	ブロック	Q-Uについての考察・取り組み内容の検討	
10	7	10	全体会	ソーシャルスキルについての理論研究	○
11	8	21	全体・ブロック	教育課程還流報告・授業研究の準備	
12	9	4	ブロック	授業研究準備	
13	9	11	ブロック	授業研究準備	
14	9	18	全体会	初任研授業研究②の授業案検討	
15	10	4	ブロック	初任研授業② 6年道徳	
16	10	23	全体会	初任研授業③の授業案検討	
17	10	25	ブロック	初任研授業③ 1年音楽	
18	10	30	ブロック	授業研究準備・Q-Uの取組についての課題検討	
19	11	8	全体会	初任研授業④の授業案検討	
20	11	29	全体会	初任研授業④ 3年特別活動	○
21	12	11	ブロック	Q-Uについての考察	
22	1	29	ブロック	Q-Uについての考察・取組内容の検討	
23	2	19	全体会	研究のまとめ（成果・課題）と来年度の方向性	
24	2	26	各個	研究集録原稿作成	
25	3	5	各個	研究集録原稿作成	